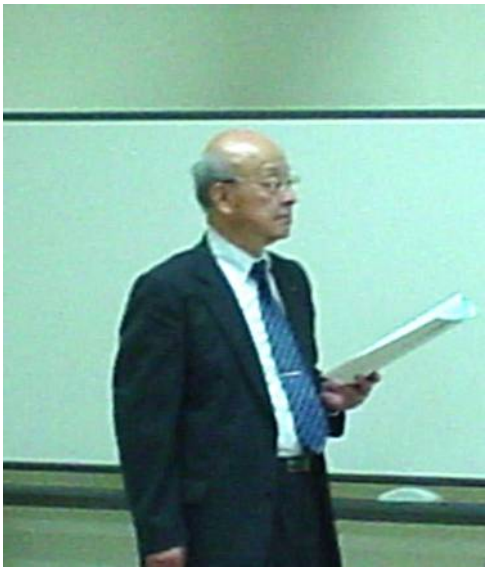
公益社団法人 日本技術士会
The Institution of Professional Engineers, Japan

会報　　第3号
発行日　平成 25 年 8 月 1 日 発行人　公益社団法人 日本技術士会群馬県支部 広報委員会

支部長メッセージ

豊かな未来を切り開く技術士とともに、第2回全体会合に当たり

公益社団法人　日本技術士会　群馬県支部　支部長　加藤　洋



公益社団法人　日本技術士会　群馬県支部では、平成 24 年度末に任期終了に伴い、8 地域本部及び 18 県支部の幹事選出選挙が実施されました。その結果、全ての地域組織において立候補者が定数以内であったため信任投票となり、選挙日程に従い平成 25 年 3 月 29 日に開票を行った結果、幹事立候補者の全員が信任されました。

群馬県支部では、次ページの群馬県支部組織概要に示す 15 名（平成 24 年度の幹事 13 名中 3 名が退任し、新たに 5 名の方が新幹事として参画）の幹事が立候補し、全員が信任されました。尚、今回信任された幹事の任期は、平成 25 年 6 月 18 日に開催された定期総会で承認後、翌々年の定期総会終了までの 2 年間です。従いまして、本日の第 2 回全体会合を始め、平成 25 年度の群馬県支部の事業は、今回信任されました 15 名の幹事で推進する事になります。

平成 25 年度の群馬県支部活動方針として、下記 4 項目を掲げ、新役員並びに会員の協力を得て推進しております。

■役員改選に伴う支部組織＆委員会体制の見直し

■群馬県支部事務局の住所／電話／ＦＡＸの変更

（変更前）住所：高崎市井野町 738-4／電話：027-362-4228／FAX：027-395-5055

（変更後）住所：利根郡みなかみ町湯原 803／電話：0278-72-2689 ／FAX：0278-72-2689

■会員技術士の活用促進活動

1．幹事を含む支部全会員に自己 PR を含む経験論文を A4 裏表 1 枚に纏め、会報に順次掲載し、その会報を増刷し、会員だけでなく、協賛企業、県庁や市役所、商工会

議所にも配布する。会報の表紙の裏には、技術士の活用方法や対価等を記載して技術士の活用促進を図る。

2．協賛企業を増やし、県庁や市役所との連携を強化し、国や県のものづくり中小企業支援等の補助金を活用して、県内の中小企業への専門家派遣や技術相談会を積極的に行う。

3．支部会員の技術士が講師や案内人となり、児童や学童を対象とした理科教室や見学会を実施する。実費は県や市又は協賛企業、学校から支援頂く。

■調査・研究事業

・自主テーマ、又は依頼テーマで調査研究事業を支部会員で実施し、報告書に纏めて協賛企業、関係機関に配布する。将来的には協賛企業、県や市、学校や大学からの依頼で調査・研究事業を有料で行う。

新役員で実施して来ました平成 25 年 1 月からの役員会報告と、予告も含めて平成 25 年度に実施する CPD 行事の実績報告を、又、上記しました会員技術士の活用促進活動の 1 の推進にあたり、群馬県支部会員の皆様に、経験論文募集の案内を次ページ以降に掲載しましたので、参照下さい。

群馬県支部は、昨年 1 月に発足し、昨年 7 月に第 1 回の全体会合を開催し、早 1 年が経過し、本年 7 月 26 日に第 2 回目の全体会合を開催することが出来た事は、会員皆様方のご協力、ご指導、ご支援の賜ものと感謝しております。

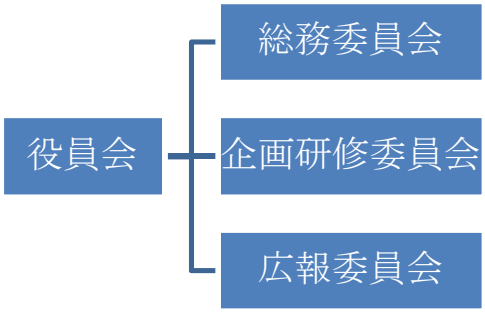
今後の群馬県支部の活動にご期待戴くと共に、皆様方からのご指導、ご鞭撻の程宜しくお願い申し上げます。

全体会合状況　　日時:平成 25 年 7 月 26 日（金）　場所:高崎市産業創造館

講演会状況　　H25 年第 3 回講演会「地震と防災」講師：早田　勉　先生

組織概要

会員数　正会員 91 名　準会員 42 名　計 133 名（平成 24 年 12 月末現在）



総務委員会	運営企画･推進･総括、財務、会規、事務局
企画研修委員会	CPD 講座の推進、倫理啓蒙、見学･交流会の企画開催
広報委員会	地域への情報発信、会報編集、会員増強活動の推進

支部幹事

氏名	部門	役職名・委員会名
石塚　省吾	建設	会計幹事　監事
大竹　雅久	機械	幹事　企画研修委員
大谷　恵	機械	幹事　広報委員
大山　健一	機械	副代表幹事（副支部長）総務委員長
加藤　洋	機械、経営工学、総合技術監理	代表幹事（支部長）事務局
小林　聖	衛生工学、総合技術監理	幹事　企画研修委員
佐藤　孝史	上下水道、建設、衛生工学、総合技術監理	幹事　総務委員
樋口　邦弘	建設	会計幹事　監事
福田　文彦	応用理学	幹事　企画研修委員
二川　真士	機械	幹事　広報委員
辺見　勇	機械	幹事　広報委員長
眞下　寛治	機械	副代表幹事（副支部長）総務委員
松本　泰彦	農業	幹事　総務委員
山本　政雄	上下水道、総合技術監理	幹事　企画研修委員
山本　亮一	応用理学	幹事　企画研修委員長
15 名		

社団法人日本技術士会群馬県支部会員の皆様へ

経験論文募集について

社団法人日本技術士会群馬県支部

資源に乏しく国土が狭い日本では、科学技術イノベーションで国づくりを進める事が唯一の道であると考えます。エネルギー問題、人口問題、気候変動など 21 世紀の地球規模の課題への対応が重要性を増しております。

我が国の科学技術の発展やその産業利用のためには、技術士がより広範な技術者の資格として、社会で一層活躍する事が重要であります。そのためには、技術士の会員数も一層増える事が必要であり、技術士の知名度を上げて行く事が要求され、その効果を上げるには、現在の技術士の方々の長年に亘る成果の一部を、経験論文として発表して戴く事が重要であると考えられます。

就きましては、此の度、社団法人日本技術士会群馬県支部に於きまして、**幹事を含む全会員**の皆様から経験論文を募集する事と致しました。会員の皆様に於かれましては、是非、この趣旨にご賛同・ご協力を戴きたくお願い申し上げます。

論文は会報に掲載し、協賛企業、県庁、市役所、商工会議所に印刷して配布致します。そのほか、技術士の活用方法や対価等も記載し、技術士活用の促進を図ります。

・経験論文の内容

・テーマ例

調査研究、応用技術の展開、環境調査と自然対応、資源循環型社会の考察、減災活動への取組み、持続可能な経営、新加工法開発、リスク管理、森林資源の活用、冷凍空調技術、大規模建設工事、震災復興活動支援、産学官連携活動、農村開発整備技術、再生可能エネルギー活用、ダム・水路整備、橋梁トンネル建設、など。

その他企業支援、相談活動、助成金支援、審査経験などを含む

・ページ数・字数

A4、2 ページ、文章は MS 明朝フォントサイズ 10.5、40 字×36 行

タイトルは MS ゴシック、フォントサイズ 12 程度。

・写真・図表等

顔写真（3× 4 乃至 4×5 単位：ｃｍ）は必ず添付、（場所は右上）、1 ページに必ず 1 枚以上の写真または図表を添付して下さい。

・日程

掲載は平成 26 年 7 月 1 日発行の「会報第 5 号」となります。

従って、**原稿の募集締切は平成 26 年 6 月 20 日（金）と致します。**

募集の開始は平成 26 年 5 月 30 日（金）と致します。

会員の皆様には、募集開始日を目標に、原稿のテーマの決定、記事の収集などを開始されますようお願い申し上げます。**（執筆予定期間：平成 25 年 8 月～平成 26 年 5 月）**

新幹事紹介

広報委員に就任して

おおや　さとし
大谷　恵　（機械部門）

４月より広報委員として参加の大谷恵です。国立大学法人東京海洋大学　海洋工学部（旧：東京商船大学；江東区越中島）で、助手をしています。海洋電子機械工学科の学部２，３年生を対象に、実習や実験を担当しています。流体機械や冷凍及びコジェネレーションなどを教えています。主機である原動機に対して補助機械という位置付けです。

技術士登録したのは、平成 13 年です。選択科目は、暖冷房・冷凍機械［現・熱工学］です。東毛は大泉町にある電機メーカーでコールド・チェーン事業に携わりました。この間に、省エネルギー機器の開発や電子式膨張弁を用いた冷媒流量制御の研究開発，実用化を推進しました。進んで電力平準化研究では、機能デマンドセットバックを実現しました。社外の企業や学会の方とも力を合わせて、課題を抽出し、企画を策定し、裏付けデータを積み重ね、店舗で実証しました。こうして成果を公表できたことは貴重な体験です。

仕事に当たっての基本は、いわば「三方一両得」です。顧客にも、メーカーにも、そして、社会にも――です。時に失敗も経験しましたが、逃げずに正面から向き合いました。詰まる処、もの造りも人造りに繋がるというのが実感です。

３．１１以降　再生可能エネルルギーにも興味の対象を拡げつつあります。幸い身近に多様な原動機があり、恵まれた環境です。船舶は、燃料の持つエネルギーを使い切る歴史を積み重ねてきました。推進力を得、電気も自前、排熱も利用する仕組みがあります。目下、低温排熱発電に注力しています。目指すゴールは、エネルギーの「地産地消」です。

難しい技術を易しく伝え、広く社会に還元し、より多くの人々が豊かさや幸せを感じられる――そんな社会に近づけたいと念じています。このためには、各企業の潜在力を知り、研究機関の智慧を拝借し、行政の組織を動員し、心を一つにして事に当たらなければならないと感じています。技術士活動を通じて、その一助になれば幸いです。

最後になりますが、広報委員の一人として地域への情報発信、会報の編集、会員増強活動の推進等に尽力する所存であります。どうぞ宜しくお願い致します。

新幹事紹介

企画編集委員就任にあたり

小林　聖（きよし）　（衛生工学、総合技術監理部門）

今年度より公益社団法人日本技術士会群馬県支部の企画研修委員としてＣＰＤ講座の推進、倫理啓発、見学･交流会の企画等に参画させて戴くことになりました。

現在､私は高崎市金古町に本社のある株式会社　環境技研に勤務しております｡弊社は環境保全に関わる分析､測定業務を出発点としております。その後、作業環境測定、製品･原材料分析、食品分析、非破壊表面解析、環境調査、環境アセスメント業務、環境･衛生コンサルタント業務等を行って参りました。近年では時代のニーズに対応するため、ダイオキシン類分析、アスベスト分析、放射能測定、微生物検査等の業務も開始し、現在に至っております。

私は、平成21年3月に衛生工学部門(廃棄物管理)で技術士二次試験に合格し、登録を行いました。当時、私の業務は環境調査業務、環境アセスメント業務を担当しており、その中で廃棄物処理施設に関する生活環境影響調査、いわゆるミニ環境アセスメントを専門とする業務を選び、合格致しました。しかし、この“廃棄物管理”に関する内容は処理技術や設備、廃棄物の減量化から整備計画、処理施設の環境影響評価等多岐に亘ります。特に、平成23年3月11日に発生した東日本大震災後の災害廃棄物処理に関しては、多くの問題を残したままとなっています。この循環型社会の形成、震災の復興といった今の社会が抱える課題解決の一役を担う廃棄物分野で社会的貢献ができるよう、継続的に研鑽を積んで往こうと考えております。

企画研修委員としての活動内容については、技術士法で定められ、二次試験の口頭試験対策で勉強(暗記)した“３義務２責務”を忘れてしまわぬよう、そして、技術部門の垣根を越えた会員相互の交流が図れるような研修を企画できるようにしたいと思います。また、群馬県内の企業に勤めている方たちにも興味が持てるような講演会、見学会等も企画できたらと思います。一方、社会的認知度が低いといわれる技術士資格の知名度向上のための活動もできたらと考えます。

よろしくお願い致します。

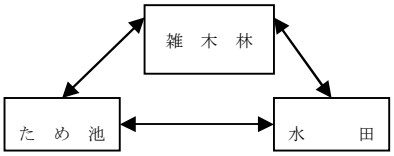
新幹事紹介

企画編集委員に就任して

福田　文彦（応用理学部門）

このたび、日本技術士会群馬支部企画委員になりました福田文彦です。私は、応用理学部門の地質を専門としております。日頃の業務は、構造物の設計に必要な地質調査を行っています。業務上、群馬県内の自然（地形及び地質）を対象にしています。　群馬県の大まかな地形・地質を述べると、「赤城山」「榛名山」「妙義山」の上毛三山と呼ばれる山体が存在し、この上毛三山に沿って、本流の利根川をはじめ、烏川・神流川・鏑川・吾妻川等の支流が山間より流れだし、扇状地や河岸段丘を形成して、現在の地形を形作っています。地域による多少の違いはあるが、基盤をなす岩盤（第三紀の堆積軟岩等）、その上層に洪積層（ロームや火山泥流），沖積世の表層土という地質構造を呈している。地形的には、山岳地帯より関東平野に移行する部分であり、丘陵地及び台地では湧水や小河川が上記ローム層や表層土を侵食し、縦長の入り組んだ低地つまり谷津を形成しており、これが、群馬県の地形・地質構造の特徴となっている。ここまでは、専門分野の話ですが、以下の話は、自分の本業を越えた趣味も含めた話を述べます。

上記の通り、群馬県は非常に豊かな自然環境を有しており、付随して動植物の豊富な地域である・・・と誰もが考えます。しかし、豊かな自然環境の指標といえる「里山」では人的関わりが希薄になり、放置された水田や水抜きが行われなくなった溜め池、間伐のなくなった雑木林がそこかしこに見受けられます。「里山」という豊かな自然環境は、上手に人的関わりが加わり形成されて行くものです。高齢化社会に移行するに従って、「里山」を管理する人間の減少、高度成長期からバブル期における減反、人口増加による宅地開発、生産性のみを追求した田圃整備、ゴルフ場建設ラッシュ、畜産排水の流れ込みによるため池の富栄養化、除草を目的としながら生態系を一変させた強力な農薬の散布、ブラックバスやブルーギル等の外来魚の密放流等々で、自然（生態系）はかなり危機的状況におかれています。私の日常業務からすれば、上記の開発に携わっている訳ですから「里山」を減らす側です。時代背景からすると、やむを得ない状況ではありましたが、これからは自然環境を保全しながら開発を行うべきと考えます。今後は、各分野（自治体、農・林業、建設業及び学術研究者）との連携を図り、後世に素晴らしい群馬の自然環境を残して行く事が使命であると考えます。最後に、企画委員として、「不言実行」出来る限り頑張る所存であります。



新幹事紹介

副支部長就任に当たり

眞下寛治（機械部門）

この度、副支部長として就任致しました眞下寛治です。

私は、現在、群馬県の中小企業の技術支援機関である群馬産業技術センターに勤務しております。当センターでは、技術支援、開発研究及び人材育成・情報提供を業務の３本柱として、顧客満足（CS）、パートナー満足（PS）、産学官連携推進を運営方針に掲げて業務に邁進しています。

私は、当センターの前身である群馬県工業試験場に昭和 60 年に異動してから、機械部品の寸法や形状等を計測する精密測定の分野を中心に技術支援、研究開発等を行って参りました。当センターが平成 15 年に開所した後は、企画管理の業務を担当し、平成 22 年に繊維工業試験場に異動になりましたが、平成 23 年から当センターの所長として運営を行っています。当センターの業務は、依頼試験、技術相談、受託研究や共同研究であるため、技術士の業務そのものと言って良いと思います。

経済的に困難な状況が続き、企業の工場の海外移転に加え、研究開発機能の移転も進んでいますが、日本は資源のない国ですから、技術の進歩が止まったら、成り立っていけません。このため、技術士の役割も重要になってくると考えています。また、企業が国の制度を活用して、技術開発を進めていく際に、申請支援を含めて、かなりの支援ができると考えています。

日銀の７月の景気判断は「緩やかに回復しつつある」ですが、海外に移転した工場は投資の回収もあり、戻ってくることは期待できませんが、アメリカのシェールガス革命によってエネルギーコストの低下が起こり、電力料金が下がれば、状況も変わってくると考えています。

製造業の付加価値額は、全産業の 20%くらいですが、輸出の約 9 割を占めています。従来、ものづくりは独自性があることや機能や品質が優れていることを目指して、研究開発をしてきましたが、現在はこれに加えて、顧客価値を考えた価値づくりが重要と言われています。まだまだ、技術シーズ中心の研究開発が多いと感じています。

研究開発後に販路を探すのでは遅く、顧客価値があって他人にできないものを作って行くしかないと考えています。

技術士には活躍の場が今後たくさんあります。会員皆様との交流を一層深めて行きたいと考えています。どうぞ宜しくお願い致します。

総務委員会通信

総務委員会だより

副支部長　総務委員長　大山　健一（機械部門）

今年2月の支部役員立候補者の信任投票で新しい理事15名が選任されています。そして、7月4日に公益社団法人日本技術士会の群馬県支部長に加藤洋理事が選任されました。任期は平成27年6月末日までとなっております。但し、任期終了後も次期支部長が選任されるまでの間は引き続き任務を行う事となっています。　群馬県支部も支部長選任に伴い、新しい組織体制での支部活動が始まりました。総務委員会は加藤洋支部長、真下寛治副支部長、佐藤孝史理事、松本泰彦理事、大山の計5名で構成されます。今回退任される福島幹事（総務委員長＆事務局）、水口幹事（副支部長）、齊田幹事を初め、旧総務委員の方々には、支部発足の時期に総務委員会活動や事務局の礎を築いて戴き感謝申し上げます。従来、事務局は福島幹事宅に登録していましたが、今年度は加藤洋支部長宅に登録変更になりました。加藤支部長には支部長の役務以外に、献身的に事務局も引き受けて戴いております。**群馬県支部は、「技術士の品位の保持、専門知識の向上を図り、かつ会員相互の連絡を密にし、地域に密着し、技術士業務の啓発、地域経済・産業の発展、福祉の増進に寄与する」ことを目的**としています。群馬県支部の活動を推進するために、2月毎に役員会が定期的に開催され、報告事項と審議事項に分けて会議を行っています。平成24年12月の群馬県支部の正会員は91名、準会員42名となっています。群馬県支部の活動は地域との連携及び技術士会本部との連携が必要です。地域経済・産業の発展のためには、講演会、見学会、無料相談会、広報活動等も必要です。今年は、経済産業省のものづくり補助金の申請書のブラシアップの無料相談会を群馬県の要請とご協力により、急遽、6月28日に開催し、19社の支援を行いました。中小企業では、研究開発や投資の強い意欲はあるが、補助金の申請等に不慣れな所も多々あります。そういった企業にとって、ブラシアップ無料相談会は、短時間とはいえ、技術士会が非常にお役に立てる機会でもあり、地域企業とも結び付きが深まりました。これに関連して、群馬県の中小企業サポーターズ制度の会員にも、登録戴いております。この制度の特徴は、銀行や損害保険会社といった県内金融機関等が、従来の資金面での活動に加え、以前から中小企業支援業務を担って来られた商工会、商工会議所、NPO 法人等の支援機関と連携し、「企業を育てる」といった新たな側面からの企業支援活動に携わって戴いています。**「中小企業サポーター」**と位置づけられた各サポーターは、きめ細やかな企業の経営支援を展開することで、企業が抱える課題の直接解決を図ったり、適切な専門機関を紹介するなどして課題解決の支援を行っています。への参加は、技術士のコンサルタント能力を発揮し、幅広く地域社会へ貢献できる機会が得易くなったと確信致します。総務委員会は加藤支部長に事務局をはじめ、ご担当戴く事が多いですが、会員や地域の皆様へ技術士会が役立つように活動致しますので、宜しくお願いします。

中小企業サポーターズ制度 (http://www.pref.gunma.jp/06/g0100014.html)

企画研修委員会通信

企画研修委員会よりの報告

企画研修委員長　山本亮一（応用理学部門）

１．H24 年度の活動の振り返り

H24 年度は、以下の 3 回の事業を実施しました。

(1) H24 年 11 月 2 日(金)　第 1 回 CPD 見学会　(株)三国東洋様（新潟県魚沼市）

(2) H25 年 1 月 18 日(金)　第 1 回 CPD 講演会　「周辺視目視検査法」

(3) H25 年 2 月 22 日(金)　第 2 回 CPD 講演会　「再生可能エネルギー」

２．H25 年度の活動　－活動報告と今後の活動予定－

H25 年度は、既に終了したものも含めて、下記の 3 ないし 4 回の CPD 事業を企画しております。

(1) H25 年 6 月 27 日(金)　第 1 回技術相談会

(2) H25 年 7 月 26 日(金)　第 3 回 CPD 講演会　「防災」（全体会と同時開催）

(3) H25 年 10 月 18 日(金)　第 2 回 CPD 見学会　「植物工場」

（(4) 時期未定　第 2 回技術相談会）

本年度の企画研修委員会は、昨年度からメンバーが若干入れ替わり、山本政雄、大竹雅久、福田文彦、小林聖、鎌腰雄一郎、山本亮一で運営しております。上記の本年度の企画案は、昨年度末から、新旧企画研修委員合同で議論しながら、作ってきたものです。

本稿が公開される時点では、上記(2)項まで終了していると思います。10 月に予定しております見学会は、昨年度に引き続き、バスツアーで企画しております。会員相互の親睦を深める意味で、非常に良い機会と思います。沢山の会員の皆さんのご参加をお待ちしております。

また本年度の特殊事情として、技術相談会を機動的に実施しております。ご存じの通り、中小製造業を対象とした平成 24 年度補正「ものづくり中小企業・小規模事業者試作開発等支援補助金」の募集が、継続されております。第 1 回技術相談会は、その申請書のブラッシュアップに特化した相談会でした。年内にもう一度の募集が有る模様で、それに対応して実施する予定にしております。

３．終わりに

最後に、本委員会より会員の皆様に、企画テーマ案のご提案、および企画委員会への参画、運営サイドとしてのご協力をお願い致したく思っております。

広報委員会通信

広報委員会だより

広報委員長　辺見　勇

此の度は、新幹事として、各委員会の新委員となられた大谷　恵、小林　聖、福田文彦、眞下　寛治の方々にご執筆をお願いし、会報に掲載する事ができ誠に有難うございました。会報編集の一人として御礼申し上げますとともに、今後とも、公益社団法人日本技術士会群馬県支部を支えて、ご活躍されますようお願い致します。また、今回、退任されます福島幹事(総務委員長・事務局)、水口幹事（副支部長)、齊田幹事（元事務局）の方々には、事務局等として広報活動に対して並々ならぬご指導を戴き、今日まで、小生が広報の仕事を続けられた事はそのお蔭と深く感謝を申し上げます。

「経験論文」の募集について：今後の活動と致しましては、平成 26 年 7 月に発行が予定されております会報第 5 号より、群馬県支部に所属する会員執筆の「経験論文」を掲載して行く事になります。原稿執筆依頼は本号の第 4 ページに掲載致しました。幹事を含む全会員皆様の奮ってのご参加を切にお待ち致しております。内容は、業務・経験を主体にします。その内訳は個人により異なりますが、企業支援、相談活動、開発計画事業、工事の着手から完成まで、調査研究事業、環境改善事業、助成金支援、審査経験等々、技術士として活躍された経験をご執筆下さい。

小生の経験の一端を申し述べさせて頂きます。企業に勤めて、あと数年で定年というときに、外国との「技術供与契約」を結ぶ事になりました。企業の中で、仕事をしてきましたが、さて、外国人に、仕事を教えるとなると、皆目見当がつきません。今までは、人に教えるのは、自分が習うより、3 倍の努力が必要だとは言われておりました。技術のマネジメントを知らなければ、人に教えることはできないと考え、技術士資格の取得に挑戦する事と致しました。学びながらも、「技術供与契約」は容赦なく進展しました。先ず、現地に乗り込み、車両の構造強度に最も影響が大きい現地の道路路面状況の調査に対する協力を申し入れました。ボンベイからゴアまで約 500Kmあり、往復 1000Kmの実走行調査へ協力して貰うため、車両並びに運転手の提供を依頼しました。朝から始まった相手企業の役員会議の結果、昼にはゴーサインが出て、夕刻、小生と運転手と相手企業の担当者を乗せた試験車両はボンベイを出発しました。相手企業は小生が計測する事に遠慮して、相手企業側から計測員を出すとの申し入れがありましたが断りました。この調査結果によって、我々は、1 級国道の道路路面状況の貴重なデータを把握する事ができ、3 形式のモデル開発車両の設計強度を十分なものにして完成する事ができました。その後、約 13 年に亘り、指導が続きました。現在はこの企業は発展を遂げ、素晴らしい企業に成長しています。しかも、彼らは、自分達がここまで発展できたのは、指導した日本の企業であると感謝の言葉をウェブ上に毎期の企業業績の発表の中に記載しております。相手に指導して貰っても、これらは、すべて自分たちの功績であって、相手に教わったものではないという外国企業が多い中で、小生はこの技術指導を実施して、本当に良かったと感じている所です。

編集後記

記録的な暑さによる熱中症やゲリラ豪雨・竜巻による被害など、以前には考えられなかったような災害が多発しています。一方、私が週末に散策する群馬の山々では、ブナをはじめカエデやサクラの仲間など、目にするほとんどの樹々が例年になく多くの実を付け大豊作の様相を呈しています。もしかしたら、植物も身の危険を感じ、少しでも子孫を残しておかなければならないと思っているのかもしれません。

環境や危機管理といった分野の重要性が叫ばれ、多くの国家予算も投入されつつありますが、それに見合った効果を上げられるのでしょうか。そのためには、目利きのできる人材が必要とされており、これこそまさに技術士の出番ではないかと感じます。

【広報委員　二川　真士】

	広報委員会
委員長	辺見　勇　（機械）
委員	二川　真士（機械） おおや　さとし
委員	大谷　恵　（機械）